

東日本大震災の義援金へのお礼状

この3月～4月にかけて、遺愛の生徒会が中心になって募金し送った東日本大震災の義援金に対して、15日のPTA総会でもご紹介しましたが、浪江町から福島市に移住したAさんからのお礼状を紹介します。

「遺愛女子中学・高校の生徒の皆様、この度は皆様のあたたかいご支援によりたくさんの物資を頂きまして誠にありがとうございました。心より感謝いたします。私達は原発のある大熊町より10km圏内にあります『浪江町』に住んでおりました。小さいながらもスーパーを営んでおり、私達夫婦で三代目となるはずでした。以前は活気に溢れ、日々家業業務を勤めてまいりました。ですが、あの原発事故により職を、生活を、すべてを失ってしまいました。福島市へ避難してから1年がすぎましたが、やっと生活らしい生活ができてきたように思います。わずかな貯金を手に体ひとつで逃げてきて、待っていたのは、個人経営だった為、失業保険ももらえないという厳しい現実でした。小学2年生と5歳になる我が子を養うため主人と二人毎日職安へ通いました。とてもみじめで、不安で何とも言えない気持ちのまま1ヶ月がすぎ、幸い主人は大工の仕事を見つけることができ、私も調理師の資格を取り、去年の10月より仕事を始めることができました。今までの仕事とは全く畑ちがいの職業ですが、早く自立していつか私達から皆様へ恩返しができたらいいなと思っております。これから大人になってゆく我が子へ私達はいろんな方から支えられて今があること、いつも感謝の気持ちを忘れないこと、これほどまでに人のあたたかさをこんなにも近くで感じることも、こんなことがなければ体験できなかったのだから…と伝えたいと思います。本当にありがとうございました。」

私達が逆に学ばせられる素晴らしいお礼状に、こちらでも感謝したい気持ちです。どのような境遇にあっても、前向きに生きていこうという姿勢と感謝の気



持ちをもち、幼いお子さんにそれを伝えようとしていることに頭が下がります。

今回の関わりは、岐阜県のNGO「この指とまれ」が呼びかけてくれたものです。今後も、継続的な支援を続けたいと思います。

例年より遅い桜の開花で、高3美術の選択授業で前庭の桜を描くことができました。

2012年5月16日